

早めの対策で安心

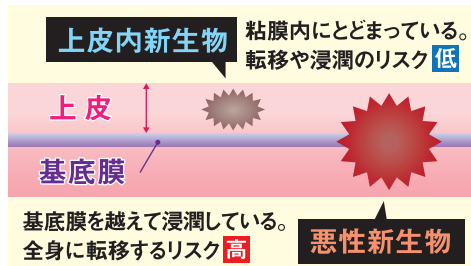
第7回

わが家で役立つ保険活用術

がんのリスクは2人に1人といわれる時代に

今では2人に1人が「がん」になるといわれています。もしも、がんと告げられたら、誰もが「まさか自分が…」「何かの間違いでは…」と認めたくない人がほとんどです。病気に向き合うためにも、家族や親しい友人などに辛い気持ちや不安などの胸の内を吐き出すことで気持ちが軽くなり、ストレスが軽減できるかもしれません。また、がん診療連携拠点病院に設置されている、がん相談支援センターのスタッフに話を聞いてもらうのもよいでしょう。同センターの相談の中には病気に関する悩みや不安のほか、医療費や生活費、社会保障制度に関する相談も多く寄せられているようです。そのような時に役に立つのが「がん保険」ではないでしょうか。

がん保険について調べる中で、上皮内新生物という言葉をよく目にします。がんの種類には「上皮内新生物」と「悪性新生物」があり、大きな違いは「転移」の有無です。上皮内新生物とは、がん細胞が「上皮」と呼ばれる場所の内側にとどまっているもので、手術で完全に切除することができれば完治するといわれています。一方、悪性新生物は上皮より深い部分の「基底膜」と呼ばれる膜を破って細胞や粘膜まで浸潤し、血液やリンパ液によって運ばれ、別の臓器へ移動してがん細胞が増えることをいいます。



がん保険のがん診断給付金の保障も商品によって違いがあり、上皮内新生物では「保障対象外」「一部保障」「同額保障」の3タイプがあります。支払い回数が「1回限りのもの」「2年経過した後のがん治療のために入院していれば再度受け取れるもの」「1年経過後のがん治療のために入院していれば毎年受け取れるもの」といったタイプがありますので、安心して治療に専念できる保険を選んでいただきたいと思います。



越川 周一

2級ファイナンシャル・プランニング技能士

協力：総合保険代理店サンツバ(株)